



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2020年(令和2年)2月15日号 No.1817

目次

■ 2019年のロシア経済と鉱工業生産	1
■ 統計速報	6
2020年1月のロシアのブランド別乗用車販売台数/6	
■ キーパーソン	7
トルクメニスタンで内閣改造/7	
■ エトセトラ	9
セミナー「ロシア極東経済と極東シベリアの石油ガス開発」/9	
月例報告会「ロシアビジネス契約(2)」のご案内/9	
■ トピックス	9
JCBがロシア極東銀行と提携しカード発行/9	
JALがモンゴル航空とコードシェアを開始/10	
JALとアエロフロートがコードシェアを開始/10	
OPECプラス、新型肺炎受け追加減産も/10	

2019年のロシア経済と鉱工業生産

はじめに

ロシア連邦国家統計局より2019年のロシアの主要経済指標が発表されたので、本速報ではそれらを図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については特に詳しく紹介していく。なお、2019年のロシアの貿易統計に関しては、税関局のデータに基づき、後日より詳しくお伝えする予定である。

統計局の速報値によれば、2019年のロシアの国内総生産(GDP)は前年比1.3%増となった。2018年の成長率は2.5%だったから(当初2.3%と発表されていたがその後上方修正された)、経済が減速したことになる。GDPのみならず、鉱工業生産など、2019年に悪化した指標が多い。

2019年のGDPを支出項目別に見ると、家計消費の2.3%増、公的部門の消費2.8%増などは悪くない。しかし、総固定資本形成が1.4%増と勢いを欠いた。さらに、輸出が2.1%減、輸入が2.2%増となり、純外需の変調が成長の足を引っ張った。

また、GDPを生産部門別に見ると、鉱業こそ2.7%増だったが、製造業は1.6%増に留まっている。一方、農林水産業は0.6%増にすぎない。図表1に見るとおり、2019年の農業生産指数は4.0%増と好調に見えるが、あまり付加価値は生み出していないということのようだ。情報・通信も1.8%増であり、デジタル経済化の掛け声に反して、ITが経済を力強く牽引している様子はない。

上述のとおり、現状では家計消費が経済を支える要因となっている。しかし、図表1に見るとおり、